

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079900223
法人名	社会福祉法人 鷹羽会
事業所名	グループホーム しじみ苑
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡大任町今任原3484-1 (電話) 0947-41-8050

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(平成20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)5,000~6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	9名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.2歳	最低	71歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川市立病院 / 森戸内科医院 / 本坂歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大任町今任の見晴らしの良い眺望の丘陵地にあり、社会福祉法人鷹羽会運営のグループホームである。近隣には同法人グループのケアハウスグッドライフや今任小学校があり、グループホーム周辺は通学路でもある。入居者の介護にあたり「一人はみんなの為に、みんなは一人の為に」を理念に掲げ、認知症ケアに代表者・管理者・職員が意欲的に取り組んでおられる。家族には毎日の暮らしがわかるように日々の写真を撮り、写真と共に暮らしの状況を報告しており、家族にとっては安心して暮らせるグループホームとして高い信頼を得ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>市町村との関わりは行事やイベントへの参加など情報発信に努め、研修参加も積極的に取り組んでいる。行政を通じて活動の協力を得ながら、事業所内で研修会を開き制度の理解を深め、入居者のサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回は地域との連携が課題となっていたが、地域との連携を高めるために地域住民の協力・参加を呼びかけるなど働きかけを行っている。自己評価・外部評価の評価内容について、更なる向上が期待される。来年度に向け、職員全員で今後の改善に向けて取り組まれることを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、行政との相談など日頃の情報交換はあるものの、地域包括支援センターとの関わりも必要と思われる。運営推進会議は、半年ごとに開催され、事業所の活動報告・サービスの報告など、状況報告や行事報告が中心となっている。今後は、運営推進会議の機会を活かし、地域との協力・連携を高めるための意見交換や改善に向けてのサービスやケアの検討など、サービスの質の向上を図る取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>定期的に家族の面会があり、来所された際に随時報告している。また、電話などでも、健康状態や生活の様子を日常的に伝えている。また、毎月手作りでグループホームの苑便りを発行し、入居者の暮らしの状況を報告している。毎月の行事の写真・日々の様子・体調・生活状況の報告をわかりやすく工夫した便りとなっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設のケアハウスと共に小学校との交流を図っている。グループホームの季節行事などを発信することで、地域との連携を高め、行事や地域活動に繋げることができるように地域との関わりを工夫している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お互いがお互いを思いやり、一人ひとりの思いを大切に「一人はみんなの為に、みんなは一人の為に」を理念に掲げ、地域密着型サービスの位置づけとして、近隣住民の方や小学校との交流を図っている。昨年3月に増設し、2ユニットのグループホームとなり、それぞれの特色を掲げられるグループホームを目指し取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族が来所された際に目につきやすい位置に理念を掲げ、入居者や職員全てが理念を確認できるように取り組んでいる。また、認知症への理解を高めるために、管理者・職員と共にミーティングで話し合うなど理念にそったサービスが提供できるように日々努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設のケアハウスとの合同の行事など地域の方の参加を働きかけている。また、小学校との交流会なども行ったり、地域の文化祭に作品を出品したり、地域との連携を図っている。グループホームと併設のケアハウスとの合同の季節行事などを地域に発信することで地域との関わりを工夫している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前は地域との連携が課題となっていたが、地域との連携を高めるために地域住民の協力・参加を呼びかけるなど働きかけを行っている。自己評価・外部評価の評価内容について、更なる向上が期待される。来年度に向け、職員全員で今後の改善に向けて取り組まれることを期待したい。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、半年ごとに開催され、事業所の活動報告・サービスの報告など、状況報告や行事報告が中心となっている。今後は、定期的な(2ヶ月に1回)運営推進会議の開催を目指し、地域との協力・連携を高めるための意見交換や改善に向けてのサービスやケアの検討など、サービスの質の向上を図る取り組みが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市町村との連携は不明な点や取り組むべき点など、状況に応じて行き来をしており、情報交換を行う関係がある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関して、熟知していない為、研修など学ぶ機会をとらえ、入居者や家族に説明できる体制が求められる。		行政を通じて権利擁護の研修情報を得たり、事業所内で研修会を開くなど、制度の理解を高めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族の面会があり、来所された際に随時報告している。また、電話などでも、健康状態や生活の様子を日常的に伝えている。また、毎月手作りでグループホームの苑便りを発行し、入居者の暮らしの状況を報告している。毎月の行事の写真・日々の様子・体調・生活状況の報告をわかりやすく工夫した便りとなっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情に対し代表者に報告し、早急にミーティングで取り上げる体制があり、問題を改善し、運営に反映していく取り組みがある。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職については極力控え、最小限に抑えており、その際には引継ぎを十分に行い、入居者へ不安感がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	募集や採用にあたっては、年齢・性別などの制限はなく、ヘルパー2級の資格を取得している事を基本としている。本人の意欲や入居者とのなじみの関係を考慮し、採用の際には、代表者と管理者が決定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人のグループ内で人権教育や研修の取り組みがあり、伝達研修も行っているが、研修の記録の充実が求められ、日時・研修テーマ・講師名・参加者名及び研修資料など書類の整備が求められる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間のおおよその行事や行事報告書などはあるが、職員の年間の研修計画が求められる。新人・現任の年間研修計画を作成し、職員の段階に応じた研修の計画が必要である。積極的に受講することで向上心を高め、サービスの質の向上を図り、職員の新たな意識改革や日々業務の中に活かしていくことが期待される。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域の同業者との交流する機会を行政を通じて打診していきたいと考えている。運営推進会議で、同業者同士で見学や交流など情報交換したいと前向きに取り組む姿勢がある。		市町村との協力のもと、同業者との情報交換を行う機会や場を設けるなど、同業者とのネットワークを高める働きかけを期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	初めに、まず家族から生活歴・性格・仕事の経歴など得た情報を、職員が共有し、入居者への言葉かけに配慮するように取り組んでいる。今後は、体験入居など事前に安心して入居できるような工夫も期待される。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	人生の先輩でもあり、家庭的な雰囲気を大切に、職員は常に入居者と一緒に楽しみや悲しみ、時には怒りを共有し支え合うなど支援している。また、入居者の生活歴を尊重し、本人の得意分野の料理や味付けなど、日々の役割を担っていただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>初回アセスメントより、入居者の生活歴など把握した上で、暮らし方・希望や意向をふまえながら、日常の会話から入居者のできる事を日々の暮らしに活かすように努めている。更なる入居者の思いや意向の把握を行う工夫を期待したい。</p>		<p>家族からの情報などアセスメントの工夫が求められる。また、入居者の意向を把握するために、職員が日々の気づきをメモなどに取るなど、入居者の言葉を積み重ね、入居者の思いや意向を更に掘り下げ、意向や思いに寄りそったケアの充実が期待される。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の生活歴や思い出・常日頃からの個々の生活パターンなどの把握を行い、日々の入居者の情報・家族の要望なども合わせ、関係者と話し合い、ニーズに対応した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期・長期目標を設定し、介護計画を作成しており、週1回のモニタリング、3ヶ月ごとの評価を行うなど、現状に即した介護計画の見直しを行っている。今後は、介護計画を入居者や家族に説明した日付の記載や本人名での確認印など注意する必要がある。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の状況に合わせ、医療機関への受診や家族の宿泊・外出・宿泊などの要望に応じて柔軟に取り組んでいる。また、ケアハウスが併設しており、行事などの合同開催など、法人グループとしてのスケールメリットを活かした取り組みを行っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の意向を大切にしながら、かかりつけ医の受診を支援し、信頼関係を築くことができているが、連絡など記録がなく、医療機関の連携などを視野に入れた記録の充実が求められる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者が重度化した場合や終末期ケアについての方針は今後の取り組みとなっている。入居者・家族・かかりつけ医(主治医)など関係者と話し合い、重度化に伴う体制づくりをはじめ、関係者間の合意にもとづき、方針や同意書など書類の検討・整備が求められる。		重度化に伴い、看取りの状況に応じて対応を明確にしておくことが望まれる。「事業所としての方針」「入居者ごとの支援方針」「同意書」などを関係者や家族・職員と話し合い、体制づくりに向けて取り組まれることを期待したい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	個人情報の規定があり、記録などは保管・管理されている。入居者の生活歴を受けとめ、臨機応変に傾聴的コミュニケーションを図るように取り組んでいる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	本人の希望・生活リズムにそった過ごし方ができるように気分・体調に合わせて配慮を行っている。その人に合った、さりげない柔軟な対応を心がけ、日々の職員の接し方に工夫がある。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理師免許のある職員により、栄養面や食材の配慮があり、各自がなじみの食器を使用し、職員も同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。入居者の得意分野を活かし、料理やお菓子作りなど食事を楽しむ工夫がある。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は1日おきを目安に清潔が保てるようにしている。個別に何時でも入浴ができる環境であり、無理強いせず、時間や声かけのタイミングを検討したり、本人の意思を尊重し、プライバシーにも配慮した取り組みを行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	日常的に料理・食材の下ごしらえ・拭き掃除・洗濯物たたみ・季節ごとの野菜作り・花壇作りなど、一人ひとりの得意分野を活かした達成感や喜び感じていただけるような取り組みがある。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	自然を感じながら、散歩を兼ねた地藏参りを日課としている方や毎日、ラジオ体操を行ったり、室内で歩行練習を行うなど支援している。施設の周辺の散歩・近隣への買い物・ドライブ・花火大会・梅見・桜見など、年間計画の中に季節を感じていただける取り組みがあり、個別に外出できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の自由な暮らしを支え、施錠しなくても安心して生活できる体制がある。玄関にはセンサーが設置されており、日中は鍵をかけない取り組みがある。自由に活動できる環境づくりに配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	非常災害をマニュアル化した誘導の工夫や災害の取り組みの準備・連携体制が求められ、年1回の消防訓練の充実が求められる。夜間を想定した訓練や併設のケアハウスとの連携・地域住民の協力など、緊急時を想定した訓練の実施が求められる。		消防を含めた避難訓練の他に、近隣を含めた合同の避難訓練を行うことが求められる。日常の避難誘導方法などもシュミレーションしておくことを期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	経験豊富な調理士が3名おり、季節感を取り入れた料理の工夫がある。入居者一人ひとりの毎日の食事・水分量・摂取量を記録している。家庭と同様に冷蔵庫の材料チェックリストをもとに調理し、目で楽しみ、バランスが取れた美味しい食事の工夫がなされている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングの共有空間にはソファがあり、いつでも思い思いにくつろげる空間となっている。窓も大きく、自然光も十分に採られ、窓の外の風景を感じることができ、バルコニーにも気軽に出入りができ、洗濯物が干してあるなど、家庭的な生活や季節感を感じることができる。バリアフリーで手すりも設置され、安全性・利便性・衛生面に配慮し、ゆったりとくつろげる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	入居するにあたりグループホームの役割や方針を明らかにし、本人・家族の意見を取り入れ、なじみの使い慣れた食器や家具など生活用品・道具などを置き、落ち着いた環境となっている。プライバシーが守られ、ゆとりがあり、居心地良く過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			